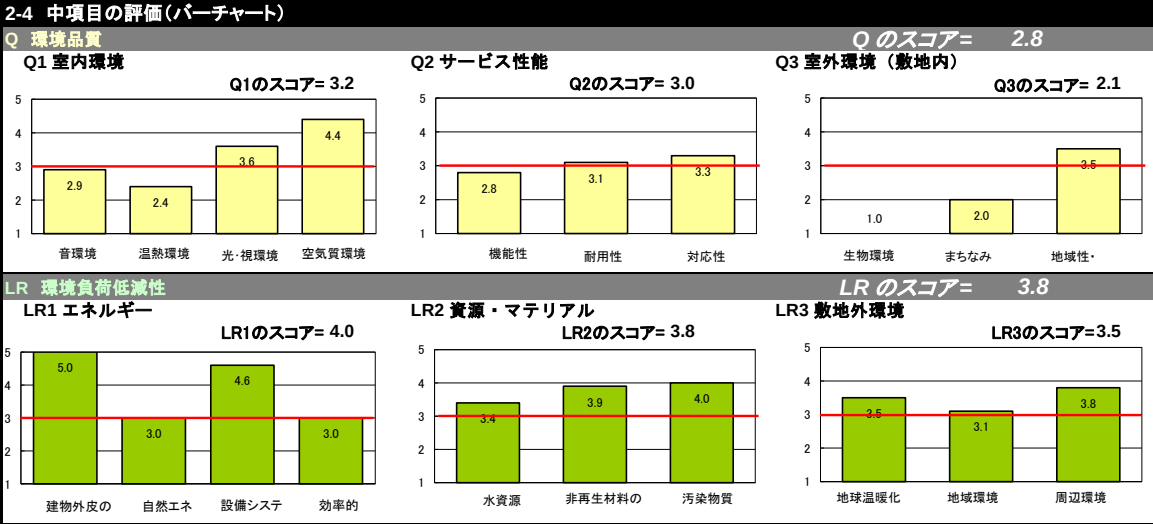
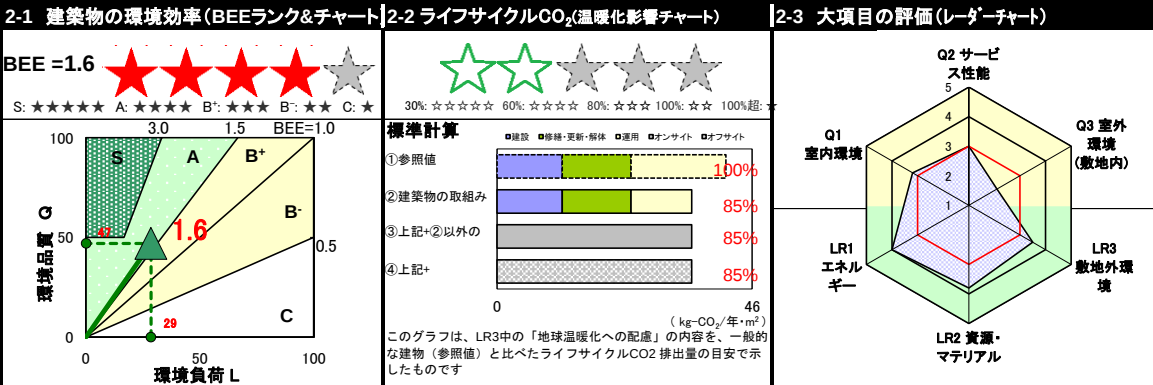




評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	豊田西高等学校併設中学校(仮称)校舎	階数	地上4階
建設地	愛知県豊田市小坂町14丁目65番地 他17筆	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域、第二種住居地域	平均居住人員	270 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2026年2月 予定	評価の実施日	2024年8月26日
敷地面積	3,000 m ²	作成者	加藤知徳
建築面積	713 m ²	確認日	2024年8月26日
延床面積	2,247 m ²	確認者	加藤知徳



3 重点項目		
①地球温暖化への配慮 3.5	③敷地内の緑化 1.0	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)
		6.5 %
		建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)
②資源の有効活用 3.5	④地域材の活用 2.0	0.0 %
		〈外装材に使用した地域性のある材料〉
		なし
		〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉
		杉羽目板

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

- ①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮
②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

豊田西高等学校併設中学校(仮称)校舎

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	独自基準	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		住居・宿泊部分		全体	
	重点項目		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質									2.8	
Q1 室内環境					0.40		-		3.2	
1 音環境				0.1	2.9	0.15	-	-	2.9	
1.1 室内騒音レベル				3.0	3.0	0.40	-	-		
1.2 遮音				0.4	2.8	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能				-	3.0	0.30	-	-		
2 界壁遮音性能				-	3.0	0.30	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	2.0	0.20	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	3.0	0.20	-	-		
1.3 吸音				-	3.0	0.20	-	-		
2 温熱環境				0.3	2.4	0.35	-	-	2.4	
2.1 室温制御				0.5	3.0	0.50	-	-		
1 室温				3.0	3.0	0.60	-	-		
2 外皮性能				3.0	3.0	0.40	-	-		
3 ゾーン別制御性				3.0	-	-	-	-		
2.2 湿度制御				3.0	3.0	0.20	-	-		
2.3 空調方式				3.0	1.0	0.30	-	-		
3 光・視環境				0.2	3.6	0.25	-	-	3.6	
3.1 昼光利用				0.3	3.6	0.30	-	-		
1 昼光率			昼光率2.02%	3.0	4.0	0.60	-	-		
2 方位別開口				-	-	-	-	-		
3 昼光利用設備				3.0	3.0	0.40	-	-		
3.2 グレア対策				0.3	4.0	0.30	-	-		
1 昼光制御			庇、カーテンを組み合わせる制御	5.0	4.0	1.00	-	-		
3.3 照度			平均照度500lx以上	3.0	4.0	0.15	-	-		
3.4 照明制御				3.0	3.0	0.25	-	-		
4 空気質環境				0.2	4.4	0.25	-	-	4.4	
4.1 発生源対策				0.5	5.0	0.50	-	-		
1 化学汚染物質			建築基準法規制対象外建築建材を全面的に採用	3.0	5.0	1.00	-	-		
4.2 換気				0.3	3.3	0.30	-	-		
1 換気量			建築基準法及び学校環境衛生基準の換気量の1.2倍の換気量を確保	3.0	4.0	0.33	-	-		
2 自然換気性能				3.0	3.0	0.33	-	-		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	3.0	0.33	-	-		
4.3 運用管理				0.2	4.5	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視			学校環境衛生基準に基づき定期的にモニタリングを行う	3.0	4.0	0.50	-	-		
2 喫煙の制御			健康増進法に基づき学校敷地内全面禁煙	3.0	5.0	0.50	-	-		
Q2 サービス性能				-	-	0.30	-	-	3.0	
1 機能性				0.4	2.8	0.40	-	-	2.8	
1.1 機能性・使いやすさ				0.4	3.0	0.40	-	-		
1 広さ・収納性				3.0	-	-	-	-		
2 高度情報通信設備対応				3.0	-	-	-	-		
3 バリアフリー計画			独自	3.0	3.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性				0.3	2.0	0.30	-	-		
1 広さ感・景観 (天井高)				3.0	3.0	0.50	-	-		
2 リフレッシュスペース				3.0	-	-	-	-		
3 内装計画				3.0	1.0	0.50	-	-		
1.3 維持管理				0.3	3.5	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計			防汚染塗装仕上の採用、出入口に排水溝を設置、床見切等にて仕上を区別	3.0	4.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保				-	3.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				0.3	3.1	0.31	-	-	3.1	
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.4	3.0	0.48	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				0.3	3.3	0.33	-	-		
1 躯体材料の耐用年数			②	-	3.0	0.23	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				-	3.0	0.23	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				-	3.0	0.09	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				-	3.0	0.08	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				-	5.0	0.15	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔			給水管:VLP(B)、排水管:VP(B)、消火管:SGP(C)、給湯:SUS(A)	-	3.0	0.23	-	-		
2.4 信頼性				0.1	3.0	0.19	-	-		
1 空調・換気設備			②	3.0	3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備				3.0	3.0	0.20	-	-		
3 電気設備				3.0	3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法				3.0	3.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備				3.0	3.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性				0.2	3.3	0.29	-	-	-	3.3
3.1 空間のゆとり			②	0.3	4.0	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり	階高 3.85m		-	4.0	0.60	-	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率＝0.29		3.0	4.0	0.40	-	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31	-	3.0	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性			-	3.0	0.17	-	-	-	
2	給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3	電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4	通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	3.0	0.22	-	-	-		
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	-	2.1	
1 生物環境の保全と創出			独自③	-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④	-	2.0	0.40	-	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	3.5	0.30	-	-	-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④	内装に黒色杉羽目板を採用、交流広場として幅広の張り廊下を設置、壁より上への設置、見通しの良い生垣、生垣による滑降活動	5.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				-	2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	-	3.8
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	-	4.0
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=0.63	3.0	5.0	0.30	-	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.20	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.64	3.0	4.6	0.30	-	-	-	4.6
4 効率的運用				0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング				-	-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制				-	3.0	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	-	3.8
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水				節水コマ付水栓、節水型便器の採用	3.0	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1			雨水利用システム導入の有無	3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2			雑排水等利用システム導入の有無	3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.9	0.63	-	-	-	3.9
2.1 材料使用量の削減			② 独自	-	3.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.24	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				-	3.0	0.20	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				再生加熱アスファルト混合物、路盤(RC-40)、ビニル床シート	3.0	5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				持続可能な森林から算出された木材使用率＝72%	3.0	5.0	0.05	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				腰壁に杉羽目板を採用、OAフロアと可動間仕切の採用	3.0	5.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	4.0	0.22	-	-	-	4.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				対象物質非含有のビニル床シート用接着剤を採用	3.0	4.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	4.0	0.68	-	-	-	
1			消火剤	-	-	-	-	-	-	
2			発泡剤(断熱材等)	A種1 ODP=0、GWP=1	5.0	0.50	-	-	-	
3			冷媒	3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率85%	-	3.5	0.33	-	-	3.5
2 地域環境への配慮				0.3	3.1	0.33	-	-	-	3.1
2.1 大気汚染防止				-	3.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				-	3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.7	0.25	-	-	-	
1			雨水排水負荷低減	独自	透水性アスファルトにて雨水流出を抑制	4.0	0.25	-	-	
2			汚水処理負荷抑制	独自	生徒・職員数を考慮した駐車台数の確保、通学経路の分散、給食用車両駐車スペースの確保	3.0	0.25	-	-	
3			交通負荷抑制	独自	5.0	0.25	-	-	-	
4			廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	3.8	0.33	-	-	-	3.8
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				-	-	-	-	-	-	
1			騒音	独自	-	-	-	-	-	
2			振動	独自	-	-	-	-	-	
3			悪臭		-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				0.6	3.6	0.67	-	-	-	
1			風害の抑制		-	3.0	0.60	-	-	
2			砂塵の抑制		-	5.0	0.20	-	-	
3			日照阻害の抑制		-	4.0	0.20	-	-	
3.3 光害の抑制				0.3	4.4	0.33	-	-	-	
1			屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		-	5.0	0.70	-	-	
2			屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策		-	3.0	0.30	-	-	

重点項目スコアシート

豊田西高等学校併設中学校(仮称)校舎

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.5
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.5	0.10	3.5
② 資源の有効活用				
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.9	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:6.5%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		2.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	1.0	-	杉羽目板

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

環境設計の配慮事項

■ 建物名称 豊田西高等学校併設中学校(仮称)校舎

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 学校全体で既設建物と外壁仕上げ材、色調を統一し調和を図り、地域にも調和するデザインとした。 また、腰壁の羽目板等地域産の木材を使用する様努めた。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 内装材にすべてF☆☆☆☆の材料を使用し、化学汚染物質発生の低減に配慮した。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 構造体をラーメン構造とし、かつ階高に余裕を持たせ、改修等にフレキシビリティに対応できるよう配慮した。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 敷地内の植栽を保護するよう建物配置等に配慮した。 また、テラスや幅広の渡り廊下、屋上デッキなど中間領域の確保に努めた。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 屋根・外壁面も断熱仕様とし、熱負荷の低減を図った。 また、開口部はLow-e複層ガラスを採用し、更なる熱負荷軽減に配慮した。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 舗装材、路盤材にリサイクル品を採用した。また床シートなどエコマーク認定商品の採用に努めた。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 透水性舗装を採用し、敷地外への雨水流失抑制に配慮した。 また、日影について1ランク上基準を満たすよう建物の配置し、近隣への影響に配慮した。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。